

古紙・廃プラ→固形燃料

RPF初のJIS認証



日本ウエストが業界で初めてJIS認証を取得した固形燃料のRPF

古紙と廃プラスチックを原料にした固形燃料「RPF」で、国内初となるJIS（日本工業規格）認証を廃棄物処理の日本ウエスト（京都市伏見区）が取得した。塩素ガスの発生を抑えた高品質のRPFが再生エネルギーとして普及するきっかけになりそうだ。

日本ウエスト取得

ボイラー向けに利用を始めた。現在の国内需要は年約

RPFは、2000年ごろから化石燃料の代替品として製紙会社などが発電用 伴って不純物が混ざった粗

150万ト。

近年、製造業者の増加に

新エネルギーの普及に 品質高め抑えガス

悪品が出回り、塩素ガス発生によるボイラーの腐食が問題になっていた。このため経済産業省が業界団体や学識経験者の協力を受け、今年1月にJISを制定した。

日本ウエストは1998年から関西で初めてRPFの製造を始めた。現在は製紙会社や石灰メーカー向けに年6万トを供給している。JIS認証取得に向け、回収する廃プラスチックの原料確認などを強化するとともに、配合比率の調整によって熱量の精度を引き上げ、高品質の製品を開発した。

同社は「JISの取得でRPFの品質が証明され、さらに用途が広がる」（山田義明常務）とみて、国内シェア1割を目指す。

（猪口健司）



RPF 古紙と廃プラスチックを破碎・圧縮した固形燃料。長さ2～5センチ、直径1～3センチの円柱状。発熱量は1キロ当たり最大1万キロワット程度で、

コークスを上回る。価格は石炭の3分の1以下。灰になる比率も石炭の半分程度。一般廃棄物から作るRDFと違って不純物が少なく、発熱量が高い。